

## 議 事 録

1. 会議の名称	池田市史編纂委員会
2. 開催日時	令和5年3月6日(月) 午後2時00分～4時00分
3. 開催場所	中央公民館 会議室A
4. 出席者 ※委員長：◎ 副委員長：○	《委員》 小田 康德 ◎ 田中 晋作 松永 和浩 《事務局職員》 田淵教育長 亀井教育次長 大賀教育部長 大谷教育部次長 前野生涯学習推進課長 高野主幹
5. 議 題	(1) 令和4年度の市史編纂委員会事業の状況について (2) そのほか
6. 議事経過	別紙のとおり
7. 開・非公開の別 ※非公開の理由	公開
8. 傍聴者数	0名

## 開 会

**教育長** 編纂委員には、池田市の教育や市史編纂事業にご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。また次年度以降の委嘱についても、快くお引き受け頂いたことお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザの流行があるなか、市史編纂事業も、広報誌への記事連載や、資料保管場所の整備など、できる範囲でひとつひとつ成果を積み上げている。ぜひ今後とも引き続き、より充実した編纂事業になるよう、ご審議いただけたらと考えている。

### (1) 令和4年度以降の市史編纂事業の進捗状況について

**事務局** 令和4年度の状況等をご報告する。市史の販売状況は、各巻1冊1,000円に、別巻は500円に値下げしたことで、かなりの販売促進効果がでた。ただ値下げして3年が経ち、効果は落ちついている。また値下げと同時期から取扱を開始したふるさと納税の返礼品として数件申し込みがあった。販促についてSNSを使った情報発信も努力したい。

市史編纂の成果の市民への還元として、広報での記事連載のほか、池田市のHP上に市史編纂担当所蔵の資料の公開を行っている。また中央公民館展示コーナーで写真展を1回開催した。客層からとくに子育て世代の市民に向けてのアピールが必要と考える。

レファレンス対応は庁内外問わず行っており、そこから新たな行政刊行物や資料を得る機会につながることもあり、今後も同じように対応していきたい。

資料の保存については旧細河小学校にラックなどを運び込み、環境を整えつつあり、これから資料の配架を進めていく状況。ただし、同所は老朽化が進んでいるため長期保存場所としては向かない。

**委員** 市史の値下げ販売に関する効果は限界が来ているのでは。市内の購買は限界とみるので、たとえば市外書店、研究会での販売や大学への寄付など池田市史の活用自体を促進することを考えては。

**事務局** 前向きに検討します。

**委員** レファレンスが多いものはHPで公開してはどうか。

**事務局** 他市の例を見て検討します。

**事務局** 調査などで文化財担当、歴史民俗資料館と連携して寺院の悉皆調査など資料調査を行っている。

今年度、大阪府内で自治体史を編纂中などの10自治体で構成している大阪自治体史連絡協議会の代表幹事に池田市が就任した。意見交換会や撮影講習などこれまで実施していない事業に取りくんだ。

資料の収集について。行政資料の収集が難しくなっている。今後行政の業務決裁が電子化すると一層収集が難しくなる。そのように工夫するか検討が必要。

体制・人員について。市史専門の職員が高齢化してきている。市史編纂事業の継続のため、職員の育成を考えると新規採用に取り組む時期に来ている。

ダイジェスト版の編集について。以前小中学生向きという意見があったが、副読本の内容との整合性など、具体的な検討が必要。

**委員** ダイジェスト版は、制作にはいろいろな問題があると思うが、まず対象年齢や公開の仕方など、どこをターゲットにしたものにするかよく考える必要があるのでは。今回だけでは決められないと考える。編纂委員だけでなく執筆委員などから広く意見を得られる機会を設けては。

**事務局** 具体化にむけて検討します。

**委員長** ダイジェスト版など市史編纂の業務は人員がいてはじめて行うことができる。是非とも入れていただきたい。

**事務局** 検討します。

閉 会